

株式会社ディヴェロップ

株式会社ディヴェロップとは？ DXを進めるにあたって...

株式会社ディヴェロップ概要・実証計画【1/2】

企業概要

企業名	株式会社 ディヴェロップ
所在地	愛知県岡崎市
代表者	喜種将臣
資本金	500万円
従業員数	30人程度
事業内容	一般土木・下水道工事・外構エクステリア工事・宅内 下水道接続工事・サッカースクール運営

- 「事業に関わる全ての人に幸福を提供する」を企業理念としてサービスを提供しています。
- サッカースクールの運営も行っており、現在100人以上の生徒がいます。
- チームワークを大切にしながら作業の効率化に努めています。

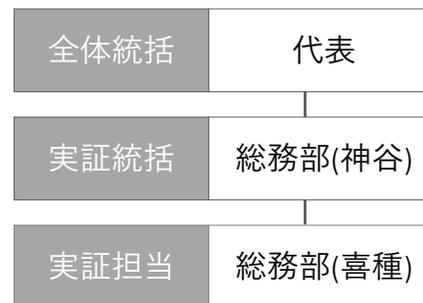
概要



デジタル化推進の背景

- 現在、請求書を発行する際に、工程表を見て完了した工事の番号をピックアップし、職長に請求金額を確認した上で請求書を発行している。その際に何度も催促の連絡をしており、手間に感じている。
- 完了した工事の番号をピックアップする際に、紙に書き出して管理を行っている状況なので、デジタル化したい。
- 事務員の中で産休育休・世代交代などの理由で仕事を引き継ぐ際に、誰にでもすぐに仕事を引き継げるような体勢づくりをしておきたい。

実証体制



普段からパソコン作業を行っている総務部が今回の実証を担当し、専門的な知識を活かしながらより良い活用方法を研究できるような体制とした。

実証をスムーズに進めるために、デジタルに強い若い世代が今回の実証に関わる体制を構築した。

AIを活用して仕事の効率化を目指す

株式会社ディヴェロップ概要・実証計画【2/2】

最終的にデジタル化で達成したいこと

- 完了した工事のピックアップ、職長への請求金額確認、請求書作成の業務を自動化させる。

今回実証で実施したいこと

- もともと活用していたシステム「どっと原価」の入力を徹底し、完了工事を把握する。
- 職長への請求金額確認用のチェックシートをエクセルで作成し、チェック状況を表で管理する。
- どっと原価を活用し請求書発行を行う。

以上の業務を自動化する。

目標とする成果

- 完了した工事の請求金額を自動でエクセルに抽出し、金額確認をエクセルで行う。
- 金額チェックを終えた工事の請求書を自動で発行する。

実証で利用するツール

導入ツール	Microsoft Power Automate（マイクロソフト）
導入費用	無料試用版 Premium：2,248円／ユーザー／月 Process：22,488円／ボット／月 Hosted Process：32,233円／ボット／月 ※2025年1月末日現在
ツールの説明	<ul style="list-style-type: none">➤ Microsoftが提供するRPA➤ プログラミングの知識がなくても、業務プロセスの自動化が可能➤ Power Automate Desktopであれば、Windows10、11ユーザーであれば無償利用が可能

【使用理由】

- Excelの操作などが想定されること、およびデスクトップ版の機能の利用のみであるためMicrosoft Power Automateを選択
※デスクトップ版のみの使用であれば無料。

まずは請求書作成を自動化させるための準備

株式会社ディヴェロップ実証実施結果【1/3】

解決を目指した具体的な課題

- 毎月工程表を見て完了工事をピックアップしていた作業を自動化する。
- 完了した工事の請求金額をエクセルで管理し、職長に確認依頼をする。
- 職長の金額確認が終わった工事をピックアップする。
- ピックアップした工事の請求書を自動で作成する。
- 発行した請求書をPDFでファイルに保存し管理する。

課題解決に向けた具体的な取組内容

- どっと原価に工事の完了日の入力を徹底する。
- どっと原価に請負情報の入力を徹底する。どっと原価から請求金額表をエクセル書式でPower Automate Desktopを使用して抽出し、職長と共有する。
- エクセルの請求金額表に職長からの✓がついている工事番号をPower Automate Desktopを使用してピックアップする。
- Power Automate Desktopを使用して、どっと原価から請求書を発行する。
- Power Automate Desktopを使用して、発行済みの請求書をPDFでファイルに保存する。

紙媒体からDXを進めることはかなりハードルが高かったが、課題を解決するためにAIを活用

株式会社ディヴェロップ 実証実施結果【2/3】

実証時に感じた壁および克服のためのアクション

【実証時に感じた壁】

- 今まで紙媒体で管理してきた私たちにとって、Power Automate Desktopをどのように使い始めたら良いか戸惑い、なかなか進められなかった。
- 何度か完成したフローを実行したが、1回1回違うフローでエラーが出てしまい細かな修正がかなり必要だった。
- 単純な作業だけでなく、日付の指定やファイルの保存先の指定など複雑なフローを作る際にかなり時間がかかった。

【克服のためのアクション】

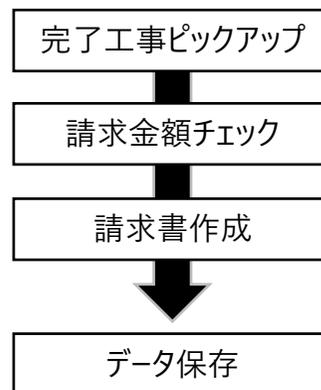
- YouTubeやChatGPTを使用し、Power Automate Desktopについて情報収集を行った。
まずは自動化したい作業の手順の整理から始めた。
- まとめて1つのフローを作成するのではなく、フローを分けて作成しエラーの原因を突き止め、少しずつ修正を行った。
- 検索サイトから調べたりChatGPTを活用して実行したいフローに少しずつ近づけて修正を繰り返した。

取組に要した工数



計約3カ月

取組の成果



今まで全て紙媒体で手作業で行っていた作業をボタン1つで自動化

【作業時間比較】

	1ヶ月	1年
使用前	4時間	48時間
使用后	30分	6時間

※職長の請求金額チェックの時間は含まない。

2人で協力して取り組んだことで意見交換ができたり情報共有ができ、1人で取り組むよりもスムーズに進めることができた

株式会社ディヴェロップ実証実施結果【3/3】

今後の課題・目標

- 実証期間中はテスト用の工事番号を発行してフローを実行させていたため、実際の工事番号を使用して請求書の発行を行いたい。初めの半年ほどは今までのやり方と並行してPower Automate Desktopでのフローを使用し、作成したフローが確実に正確になったときに完全な自動化をしたい。
- 請求書の発行だけでなく、他にもPower Automate Desktopでルーティン化できる作業を自動化させていきたい。

- 外注を内製化し収益力を高めるツール(3DCAD等)の導入に向けた事前勉強。
- 現在使用しているツールの見直し。
- DXにつながる新たな様々なツールの導入。

(デジタル化を推進する他企業への) メッセージ

今回の実証で初めて自動化に挑戦しましたが、一見単純な作業でも予想をはるかに超える労力を使いました。思いもなかった課題が次々に出てきてしまい、正直何度も挫折しましたが、今思えば実際に起きた課題1つ1つの解決が何よりも勉強になったと感じています。事前準備はもちろん大切ですが、『やってみたい』といった願望だけでなく実際に自分でやることの大切さに気付くことができました。

総務部
喜種



総務部
神谷



今年で2回目の参加をさせていただきましたが、前回は既存のツールを弊社のシステムに合わせて活用していく取り組みを行い、今年度は自分たちで1からフローを作っていくという取り組みだったので正直前回よりも調べる時間や取組む時間が多くなってしまい活用まではもう少し時間がかかると思いますが、この取り組みによってまた新たに自動化するための基本的な流れややり方は勉強出来たので、そこが今回の1番の収穫だと思いました。自動化が可能な作業は今後も積極的にRPAの活用をしていきたいです。